

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
（分担）研究報告書

大脳皮質基底核症候群（CBS）における4R-tauopathyを示唆する所見および
4R-tauopathyの診断基準の検証に関する研究

研究分担者 下畑 享良：岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野 教授

研究要旨：大脳皮質基底核症候群（CBS）における
4R-tauopathyを示唆する所見および4R-tauopathyの診断基準
の感度、特異度を明らかにした。

下畑 享良：岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野 教授

A. 研究目的

大脳皮質基底核症候群（CBS）における4R-tauopathyを示唆する所見および4R-tauopathyの診断基準(Respondek, 2019)の感度、特異度を明らかにする。

B. 研究方法

「MDS-PSP診断基準のCBS診断基準該当するもの、もしくは、Armstrong基準のCBS基準に該当するもの」をCBSと定義した。J-VAC study groupに登録されたCBD(32例)およびCBD mimics(32例)の計64例のうち、CBSに該当するCBD(12例)およびCBD mimics(19例)計31例を対象に、4R-tauopathyの診断基準の感度、特異度を算出する。

次に、4R-tauopathyとnon 4R-tauopathyで比較し、前者を示唆する所見の有無を明らかにするとともに、両群での主要症候出現までの期間の違いについて検討する。

（倫理面への配慮）

各施設において倫理審査を行った。

C. 研究結果

4R-tauopathyの診断基準の感度は、診察時で83%、全経過では100%であったが、特異度は、診察時で50%、全経過で25%と

低い。4R-tauopathyの症例では女性の割合が高く、non-4R-tauopathyでは男性の割合が高かった ($p=0.037$)。発症年齢、罹病期間、臨床症候および主要症候までの出現期間に差は認めなかった。

D. 考察

4R-tauopathyの症例は、診断基準を満たすようになり感度が高くなる一方、non-4R-tauopathyの症例も、経過の中で4R-tauopathyの診断基準を満たすようになるため、特異度が下がったものと考えた。

E. 結論

CBSにおける4R-tauopathyの診断基準の感度は診察時で83%、全経過では100%と高いが、特異度は診察時で50%、全経過では25%と低く、より特異度の高い診断基準を作成する必要がある。またCBSの背景病理が4R-tauopathyか否かを生前に予測する臨床症候を同定できなかった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし